



東京女子医科大学学術リポジトリ  
<https://twinkle.repo.nii.ac.jp>



## テュートリアル課題 何となく元気がない

著者名	東京女子医科大学
雑誌名	テュートリアル課題
巻	2011
号	B4
発行年	2011-08-29
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10470/31168">http://hdl.handle.net/10470/31168</a>

2011年度            Block. 4

課 題            No.2

課題名：何となく元気がない

課題作成者：小児科学

舟塚 真

シート1

生後21日目の和雄くんは、ミルクをたくさん飲む元気な赤ちゃんです。お母さんのお産の経過も順調で、生まれて5日目にお母さんと一緒に退院できました。夜6時のミルクは普通に飲めたのに、夜9時頃から急にぐずり始め、ミルクをあげたら全部もどしてしまいました。その後も繰り返し吐いてしまうので、救急病院を受診することになりました。

シート2

病院では、小児科の先生が胸やお腹を診察した後、頭を触ってこう言いました。「何となく元気がないし、顔色も少し悪いですね。お話のできない赤ちゃんの『何となく元気がない』という症状は心配な所見です。念のため頭やその他の検査をする必要がありますので入院しましょう」。お母さんは、吐いているのになんでお腹ではなくて頭なんだろう、と思いましたが、確かにいつもより元気がなく、ぐったりしているので入院して検査をしてもらうことにしました。

シート3

検査後、お母さんは小児科の先生から、結果の説明を受けました。そして更に「今後は脳外科の先生と協力、相談しながら赤ちゃんを診させていただきます。嘔吐やけいれん発作の有無、赤ちゃんのご機嫌がどうかの他、毎日頭の大きさをチェックさせてもらいます」と、説明を受けました。なんで頭の大きさを測るのだろう、と思い質問すると、いくつかの可能性について図を書いて丁寧に説明してくれました。脳外科の先生に相談する内容も教えてくれました。

## シート4

和雄くんはその後元気になり、またたくさんミルクを飲むようになりました。頭の大きさも、どんどん大きくなることはありませんでした。しかし、お母さんは、和雄くんが今後も順調に育っていくのか、重い障害が残るとすればどんな合併症が今後起こってくるのか、心配でなりません。小児科の先生は、「この線に沿って大きくなれば大丈夫ですよ。」といって、頭や体の大きさを記録する図を見せてくれました。また定期的な乳幼児検診を必ず受けることを勧められ、その際に、お母さんがチェックするポイントをいろいろ教えてくれました。